

# FMにおける BIM活用事例集の 発行

## はじめに

BIM・FM研究部会は2012年9月に発足し、JFMA版「BIM・FMガイドライン」の策定と新たなビジネスモデルの構築を目標に活動している。BIM(Building Information Modeling)は建築のライフサイクルにわたって建物情報を活用しようという考え方とその手法のことである。建築生産の段階(設計段階・施工段階)では、BIMは当たり前のように使われるようになってきた。一方、建築を運用する段階ではBIMへの関心が高まりつつあるものの、その活用が進んでいくとはいえない。

## 建築BIM推進会議について

2019年6月に国土交通省により「建築BIM推進会議」が設置され、現在も活動が継続している。官民が一体となってBIMの活用を推進し、建築物の生産プロセスおよび維持管理における生産性向上を図ることを目的とし、建築の運用や管理、設計や施工に関わる国土交通省内の関係部署、民間団体、学識者、国土技術政策総合研究所、建築研究所等が参加している。建築生産の段階におけるBIMの効果は認識されるようになったが、運用段階での効果は定性的に示されているに過ぎない。施設の計画から運用、ライフサイクルにわたって施設に関する情報を把握・管理することは、施設の所有者や運用・維持管理に関わる人たちにとっても大きな効果があると考えられているが、その効果と費用と釣り合ってい

部会長 **猪里 孝司**

いざとたかし

大成建設株式会社 設計本部 企画推進室長  
認定ファシリティマネジャー



るかが明らかになっていない。

## FMにおけるBIM活用事例集について

2019年に発行した『ファシリティマネジメントのためのBIMガイドライン』では、関係者の役割やBIM実行計画、FM業務に必要なBIMモデルについて解説し、BIM実行計画のひな型や実際にFMでBIMを活用した事例を紹介するとともに、建築のデジタル情報としてのBIMの可能性を示した。BIMとFM双方の業務を通訳し情報の回路をつなぐ役割を果たしていると考えている。多くのファシリティマネジャーがFMでのBIM活用を検討している。その方々の背中を押すために個別の事例を通した具体的な説明、それぞれの事例の目的・内容・手法・評価などを分かりやすく示したBIM活用事例集を発行することとなった。

部会員の皆さんの協力で9件の事例が集まった。それぞれの事例の概要とともに「BIM利用の目的」「期待した効果と達成度」「課題、問題、苦労した点等」「今後の期待」などの評価に関する項目と「FMシステムとの連携手法」「ワークフローと業務分担(関係者と役割)」など手法に関する項目を簡潔にまとめている。FM業務でBIMがどのように活用できるか、BIMがFMにどのように貢献できるかをそれぞれの事例を通して、実感していただきたい。この事例集をきっかけに、FMでのBIM活用に踏み出す方が少しでも増えることを祈っている。◀